

誠実な五橋の心を咲かせよう

1学期を振り返って

4
月

1学期さまざまな活動や行事がありました。先日行われた学年集会ではその活動の振り返りを行い、いよいよ中学校生活最後の学期である2学期の決意を学年全員で確認しました。

<修学旅行を通して> 3年1組 ●●●●さん

進級してすぐ「階団」という目標で修学旅行が行われました。二日目は野外活動の時よりも大きい範囲での自習研修(京都市内)でした。2学期の後期から班を組み計画を立ててきました。ですが、実際(研修を始めると)計画通りに進まず、トラブルが起きてしまった班もあったと思います。その時々の班も臨機応変に対応し、古都京都の魅力を感じながら沢山の思い出を作ることができました。これからも修学旅行で感じたことや素晴らしい思い出を忘れず、これからの学校生活にも仲間と協力しながら過ごしていきましょう。



<スポ・レク大会を通して> 3年6組 ●●●●さん



5月7日のスポ・レク大会は、雨で中止になるかと思われましたが、無事に天候が回復し全種目を行うことができました。クラス対抗リレーでは、どのクラスも一丸となってバトンをつなぎ、最後まで諦めずに走り抜けました。また、それぞれの応援も熱く、会場全体が一体となって盛り上がりました。結果はクラスにより異なりますが、どのクラスにとっても最高の思い出になったと思います。

大縄跳びでは、それぞれのクラスが努力を重ね、一致団結して取

5
月

り組むことができました。私のクラスでは初め、一回も跳ぶこともできませんでしたが、「スポ・レク優勝」という共通の目的に向けて練習を重ね、跳ぶ回数を増やしていくことで団結力が深まっていくのを感じました。

スポ・レク大会では、修学旅行で得た「団結力」をクラス単位に広げて、更に深めていくことができました。この「団結力」は、学校生活だけではなく、社会に出てからも重要になると思います。大縄跳びのように、全員で共通の目標に向かうのはもちろん、リレーのように、一人一人の強みを生かし、弱みを互いに補っていけると良いと思います。スポ・レク大会で得た経験のように、1つの目標にクラス全員が協力して向かって、球技大会や2学期の学校生活に生かしていきましょう

<運動部の活動を通して> 3年2組 ●●●●さん

運動部は6月の市の大会で部活動として最後を締めくくった選手もいましたが、県大会・東北大会・全国大会へと勝ち進んだ選手もいました。仲間たちの熱き戦いに喜びと誇りを持って最後まで応援しました。このような結果や思いは、部活動での先輩、後輩、身近にいた同学年の仲間と過ごし方日から培われたものと感じます。辛い練習も、喜びや悔しさをみんなと共有できたからこそ乗り越えられました。



6
月

そのような生活の一部と化した部活動を引退してからの日々は、ぼっかりと穴が開いた気分ですが、あっという間に高校受験が迫っています。気持ちを切り替え、自分の進む道をしっかり見つめる時です。積み上げた部活動での経験、そこから得た諦めない気持ちを胸に、最大限の力が発揮できるように頑張ります。

<合唱コンクールを通して> 3年2組 ●●●●さん

今年の合唱コンクールは、3年生で最後の合唱コンクールでした。私は企画委員として、又、学級委員としてこの行事に取り組みました。

最初の頃を思い返してみると、朝の合唱練習に来る人が少なかったり、私のクラスでは朝から怒鳴り声のような声で歌ったりする人もいました。しかし、練習が進むにつれて、集中して練習に取り組むようになりました。私のクラスは、リハーサルの段階では未完成だったものの、本番では最高のパフォーマンスを発揮することができ、最優秀賞を取ることができました。合唱で培った団結力を球技大会にも生かしてほしいです。



＜文化部の活動を通して＞3年4組 ●●●●さん

文化部は運動部に比べて表舞台に立つ場面が少なく、あまり目立たない印象があるかもしれませんが、しかし、文化部も運動部と同じくらい充実して輝いた日々を過ごしてきました。そして、ほとんどの文化部が、先日の五橋祭をもって、その主な活動を終了しています。

これまで、それぞれの部活動がコンクールや発表会に向けて一生懸命励み、文化部が先頭に立つ五橋祭では、私たち三年生の最後にふさわしい盛り上がりを見せました。皆で協力して準備に取り組み、それぞれが自分の役割を全うしたことで、目にとまる展示や華やかなパフォーマンスをお見せすることができたと思います。

私は、科学部に所属していました。科学部では、一人一人が自由に好きなものを探求・実験することができ、顧問の菅澤先生は、私たちを信頼して自由に活動することを見守ってくれました。部員同士はもちろん、先生との仲も良く、毎日部活動に行くのが楽しみでした。たまに意見の相違から部活動内で対立が起こることもありましたが、そのたびに話し合いなどを通して問題を解決していきました。また、自由すぎて先生に注意を受けたこともありました。振り返ってみると、私にとっては一つ一つがかけがえのない思い出です。



私は、科学部の活動を通して、成功ばかりにこだわるのではなく、失敗を経験しながら成長していくことが大切だと気づけました。科学の実験に失敗はつきものです。実験が上手くいかなかった場合は、原因を分析し改善策を考えます。諦めずに改良を繰り返すことで、良い結果に近づけることができます。これは社会生活においても同様のことが言えると思います。例え失敗しても、ただ落ち込んで終わるのではなく、その失敗からいかに多くのことを学び得て、次に生かせるかが重要です。失敗を恐れずに挑戦し、壁を乗り越えられたとき、人は大きな成長を遂げることができるのだと思います。部活動で学んだこと経験したことを生かして、今後の生活に役立てていきたいです。

＜五橋祭を通して＞3年3組 ●●●●さん



今年の五橋祭は実行委員や有志に参加したいという3年生が多く、文化部以外の生徒も何らかの形で最後の五橋祭に関わりたい、楽しみたいという気持ちが伝わってきました。

私は3年間実行委員をしてきて、自ら参加する生徒がいないと、これからの行事は成り立たなくなると（心配を）感じていたのですが、今の学年が意欲的で努力家な人ばかりで嬉しく思いました。もちろん五橋祭で輝くべきは文化部の皆さんです。ステージ上の素晴らしい演出だけでなく、各々の活動場所で今

までの五橋祭より更にグレードアップした展示や発表を行ってくれました。実行委員側からすると五橋祭を創り上げる過程で（文化部の人たちが）少しでもやりがいを感じてもらえたらなら幸いです。

これを機に部活動を引退する方も多く出てきて、3年生の立場が明確になってきたと思います。私は、1年生の頃、五橋祭を先頭に立って創り上げている3年生の先輩の姿を見て、尊敬の気持ちとこうなりたいという憧れを持つようになりました。皆さんは先輩ではなくとも目標にしているものにこの2年半で近づけましたか。私は、先輩とも、皆さんの努力とも、比べものにならないほどまだまだです。長いようで本当に一瞬の中学校生活を大切にしていきたいと思います。

<学年集会を通して> 3年4組 ●●●●さん

私は、昨年度の卒業式に参加して、「3年生ってこんなにかっこいいんだ」と思ったことを覚えています。凛として堂々としている姿から、先輩がどんな気持ちで3年間を過ごしたのか伝わってきました。私は今の自分が、1・2生に尊敬してもらえる背中を見せていると自信を持って言えません。私を含む今の状態の学年で“理想の3年生”と言えるのでしょうか。まだ2分前着席ができなかったり、切り替えが上手にできなかったりする人がいると思います。今回の集会を通して反省した点、良かった点を考えながら、そして、卒業の時にどのような姿でいるかイメージしながら2学期の生活を送っていきましょう。

市国語弁論ブロック大会

9月20日（金）に仙台市の国語弁論大会が開かれました。本校からは、3年7組の●●●●さんが代表として発表してきました（優良賞）。五橋祭で披露できませんでしたので、掲載いたします。

「努力と挑戦」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

皆さんは、好きなことや頑張っていることは、ありますか。僕は、五歳で仙台に引っ越してきてから、テニスと共に人生を歩んでいます。テニスの楽しさに惹かれ、無我夢中になって練習し、4年生で初めて東北大会の切符を掴みました。しかし、大会は世界を震撼させたコロナのパンデミックによりあっさり奪われてしまいました。それは大変ショックなことでしたが、コロナ禍でもできる限りのことをしようと、毎日素振りをしたり、人のいなくなった広場でボールを打ったりと練習を欠かしませんでした。

そして迎えた、6年生での初めての全国大会かつ錦織圭選手も優勝した大きな大会です。緊張なのか、期待なのかわからないほど気分が高揚し、とてもドキドキしたのを覚えています。結果はベスト16。全国で戦うトップ選手を見て、もっと勝ちたい、トッププレイヤーになりたいという思いが芽生えました。それからは全国ベスト8を目標に掲げ、日々練習に励みました。今までとは違うプレースタイルの構築や各ショット強化をし、苦手な練習にも取り組みました。

そして、昨年、ベスト8をかけた戦いを迎えました。試合前は緊張で呼吸も浅くなり、体も思うように動きませんでした。

「練習はたくさんやってきた、あとは信じてやるだけ。」

そう自分に言い聞かせ、コートに立ちました。しかし、無意識にも気持ちが先走ったのか、練習通りのパフォーマンスを発揮することができませんでした。どうにか状況を変えようと、必死に最後までがんばりましたが、流れを変えられず、敗退となりました。頭の中が真っ白になり、今までやってきたことが全て無駄になったような絶望感でいっぱいでした。それに負けたことにより、別の道を歩まなければいけない気がしていたのです。その敗戦からなかなか立ち直れずにいましたが、やはりコートに立つとテニスが楽しくて、勝ちたいと思うのです。僕は今まで以上に練習に向き合うようになりました。勝つために必要なことを分析し、課題を一つ一つ確実に潰していく。どんな場面でも「一球入魂」を意識し、1番いい状態でボールを打つ。テニスのことを真っ先に考え、実行しました。すると、また自分が上達していくのを実感できるようになっていきました。

そして、7月の最後の中学生大会東北予選。全国中学生大会に出場できるのは優勝者のみ。優勝するには1日に5試合を勝ち上がらなければなりません。準決勝もタイブレークにもつれ込み、相当足に疲労がたまっているのを感じていました。決勝は序盤から接戦でしたが、最後まで目の前のポイントのことだけに集中し、勝つことができました。

僕は、あの敗戦から勝敗により進むべき道が分かれるのではなく、自分の進むべき道に勝ちも負けもあることに気づきました。負けから学ぶことのほうが多いとよく言いますが、負けから学ぶことができれば前進できるのだと思います。そして、僕がテニスをやってきて最も大事だと思うことは、努力を継続することです。それは根気もいるし難しいことですが、皆さんも目標があるのなら、失敗や挫折、悔しさや喪失感を乗り越えてほしいと思います。僕は来年、高校進学という人生の節目を迎えます。新しい場所への期待と不安で複雑な気持ちですが、コロナ禍でも止められなかった成長は、命のある限り続きます。僕は、自分のやりたいことを実現するために、勇気を出してチャレンジし、努力し続けたいと思います。

